



FISCA

友 情
第 36 号

富士宮国際姉妹都市協会

Fujinomiya International Sister City Association Sister City News Volume 36



平成28年 サンタモニカ市親善訪問団 サンタモニカ市庁舎議場にて



思 い 出

会 長 赤 池 俊 洋

富士宮市・サンタモニカ市、姉妹都市提携41年目（協会会長の任期2年）もあと、少しとなりました。

就任1年目の40周年記念では協会の役員、会員の皆様、市担当事務局の職員方の協力、支援により記念事業やレセプションなど盛会のうちに終わりました。サンタモニカより訪問団の皆様と、大変有意義な交流ができました。また、交換学生の交流事業も40周年記念と同時期に行われ、高校生3名を派遣することができました。そして、就任2年目は7月からの交換学生4名の派遣とサンタモニカ高校生4名の受け入れを行いました。サンタモニカの学生は富士宮市滞在中に市内の高校生たちとの交流イベント「サンタモニカ講座アメリカの高校生LIFEを知ろう」（富士宮市国際交流協会主催）に参加し、地元高校生達と有意義な交流を行いました。10月には、10月19日～23日迄の5日間でサンタモニカ市親善訪問団の派遣を実施しました。私自身も初めてのサンタモニカ市への訪問でしたが、富士宮市長を団長に、一般参加市民の皆様、富士宮市職員等19名で訪問いたしました。単なる観光でなく公式訪問であることから、サンタモニカ市庁

舎・副市長表敬、米国・SGI本部表敬、サンタモニカ姉妹都市協会主催のレセプションパーティーでの交流、サンタモニカ・ロサンゼルス市内観光など思い深い親善訪問ができました。12月3日には、富士宮国際姉妹都市協会として、初めての試みである「中学生・英語スピーチコンテスト」を駅前交流センターきららで開催し、富士・富士宮市の中学生5名が自作・暗唱の部に分かれて発表、そして審査の先生の評価によって表彰が行われました。発表の生徒たちは良く勉強し、レベルの高い英語力で、大変すばらしいスピーチでした。私自身、協会の会長職を受け、大変、良い経験をさせていただきました。協会役員の皆様や富士宮市担当事務局職員の皆様などに助けられて、2年間の役務を終えようとしています。本当にありがとうございました。以上、私の任期2年間の事業紹介をさせていただきました。今後も、当協会を通して富士宮市・サンタモニカ市、両市が深い絆で一層の交流を深め、発展し、富士宮市の国際都市としての発展に寄与できますように、協会役員一同、努めてまいります。最後に会員の皆様のご協力、ご健勝をお祈り申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

サンタモニカ交換留学生事業

学校夏季休暇の4週間で
ペア学生と一緒に生活する交換留学

7月23日(土)～8月5日(金) 富士宮市の高校生渡米。サンタモニカのペア学生宅でホームステイ

8月5日(金)～8月18日(木) ペアの学生と一緒に帰国。富士宮市で各学生宅にホームステイ

■ 平成28年度 交換学生のご紹介

富士宮市 学生



写真左より

森下ミホさん (3年) 豊田春奈さん (3年)
西野凌矢さん (3年) 佐野大晟さん (2年)

サンタモニカ市 学生



写真左より

ベン Ben Stansbury(17) リンジー Lidsey Yocum(16)
マックス Max Posell(16) ユーリシアス Ulyseas Oslapas(16)

● ● ● ● ● サンタモニカ滞在中の学生たちの様子 ● ● ● ● ●



出 発



出発 (成田空港にて)



ロサンゼルス空港到着



ショッピングモール



プールパーティー



サイエンスセンター



BBQパーティー

日本語が通じない

西野 凌矢 (ペア Max)



私は、将来留学をしたいと思っていました。その一歩として、この事業に応募しました。周りからは、英語ができないのに大丈夫？といわれましたが、海外というところがどんな場所なのか知りたかったので、ジエスチャーなどを使ってでも、絶対行ってくと覚悟しました。行けばなんとかなる、という軽い気持ちでは行きたくなかったので1つでも決めていこうと思い、私は1人でも多くの人と接することを目標にしました。そして当日、もうこうなったら行くしかない、ためらいなどなく飛び出しました。

十数年といた日本という国を離れる、言葉も伝わらない知らない人だけの所に行くんだなあといろいろな考えや楽しみを飛行機の中で考えていました。あっという間に着き、空港に着いた時には日本語がどこにもなく、周りでは聞きとれない英語がとびかっていた。

ロビーでは、事前にメールでやりとりしていた交換学生たちが待っていて、やはり知っている人がいるだけで何となく安心しました。

家に着き、まず自己紹介をし、犬が2匹いたので遊んでいると、犬が好きなの？飛行機どうだった？といった会話を片言ながらしました。

ペア学生MAXの両親は日本に住んでいたこともあり、日本語も話すことができたので、分からない英語を教してもらいながら、なんとかコミュニケーションがとれました。

家の中を案内してもらおうとまず、家が広い、庭にプール、ここは映画の世界かと思い、お父さんがお酒好きでワインセラーもあり、夕方になると皆でプールで遊び、夕飯はハンバーガーと、アメリカ感がすごかったです。

2日目の朝、英語の会話の食卓にびっくり、そうかここは日本じゃないんだと思いました。

早く慣れなきゃという焦り、家族で何を話しているの



か全く理解できない不安で、最初の3日間くらいは日本に早く帰りたいなとか日本での当たり前がありがたいことだと実感しました。

滞在中は、海、ショッピング、湖など、色々な所に連れてってもらいました。僕の中で1番残っている事は、ロサンゼルス、ハリウッドに行ったことです。スペースシャトルを間近で見たり、最初は帰りたかった事も忘れ、最後には、もっと居たいまた来たいと思い始めました。

そして最後の日、MAXといっしょに日本に帰国、空港で日本語が聞こえる、看板に日本語が書いてある喜びに溢れ、家に着くと、友達が歓迎してくれました。MAXはどこに行きたいと聞くと、凌矢の住んでる町を見たいというので、家の周りを散歩したり、商店街などに行きました。



アメリカは16才から車の免許をとることができますが、こちらでは18才、向こうでは車で移動が多かったため、最初は歩くのが嫌だったようですが、徐々に慣れて自分からあそこに行きたいと言ってもらえたので、少し安心しました。

帰国してからは英語にも少し慣れ、ニュアンスでこんな感じかなと、聞き取ることもできるようになり会話らしくなりました。富士山に行ったり、東京に行ったり、アメリカと日本での4週間はあっという間で、英語をもっと勉強して、また、サンタモニカに行きたいと思いました。

このような事業が何十年たっても、続いていければいいなと思います。

ふとしたきっかけで、応募しましたが絆で結ばれた気がします。

思いもよらない事やプランどおりにいかないこと、アクシデントなどもありましたが、みんなで支えあって、高校生でサンタモニカに行けたことにとっても感謝しています。

忘れられない夢の国

森下ミホ (ペア Lindsey)



今年の夏休みは、今までにないとても印象に残る楽しい夏休みを過ごすことができました。

今までfacebookでしか話ができなかった私のペアのリンジーと会えた時の感動は素晴らしいものでした。

1日目からホストマザーはとてもやさしく、さらには私だけの部屋まであり本当に嬉しかったです。

しかし1日目にしてすごくショックを受けたことがありました。それは、自分の英会話の聞き取れなさです。洋楽もよく聞いていたし、学校で英語の先生ともよく英語で会話をしていたので自信はあったのですが、現地の英語はすごく速く驚きました。

しかし、それも3日すれば少しずつ聞きとれるようになり、なんとかゆっくり話せば分かるようになりました。最初は質問に答えるのに必死で自分から質問することも少なかったのですが、1週間が過ぎたあたりから、自分から話をもちだしたり、家族についていろいろ質問をしたりもできるようになりました。

ウェルカムパーティーでは、私たちに歌やおかしのサプライズをプレゼントしてくれたり、いろんな有名な観光地へ連れていってくれたり、予定が毎日いっぱい後半は少し出かけすぎて疲れたくらい、14日間ほんとに毎日が夢のようで楽しかったです。

たった2週間でしたが、楽しかった分、別れの時は本当に悲しく、ホストマザーともホストファザーともお兄さんともハグをしてまた会おうねと約束をしました。

そして、日本に帰って最初に抹茶のアイスクリームをゆっくり味わって食べました。久々の日本の味は本当に体のすみずみまでしみこみました。私のペアのリンジーも、気に入ったらしくその後何回か食べたいと言われました。

リンジーはベジタリアンで食に少し気を配りましたが、日本食を元々よく食べる家だったので、お肉(とり肉、豚肉、牛肉)以外の物をテーブルにならねば、なんでも食べてくれました。

特に気に入ってくれた食べ物は、みそ汁、そして、リンジーがよるこんでくれた所は、白糸の滝。サンタモニカでは水が少ないのであのような自然と触れ合える所はとても新鮮で楽しかったと言っていました。

他にも、静岡へショッピングへ行ったり、女の子なので服や小物を見たり、リンジーと日本滞在の時間もあっという間に過ぎていきました。この夏休みの約1ヶ月一緒にいただけなのに前から知っていたかのように気持ちが通じ合っていました。別れる日は感謝を伝えハグをして「また来てね」と伝え、バイバイしました。

チャレンジすることの大切さや人と関わるることの大切さ、アメリカの人々はみんな誰でも気軽に話かけてくれる人ばかりで、とても1人1人に温かさを感じました。私もあのようになりたいたいと思いました。これからの人生の勇気になると思います。

最初の3日間くらいは、家族も友達も近くにいない状況に悲しさや哀しさを感じることもありましたが、一人で周りの力を借りながら生きてゆく方法が学べたと思います。この経験をバネにこれからも多くのことに挑戦したいです。



たくさんの感謝

豊田春奈 (ペア Ben)



「海外に行く。」人生で一度は誰もが憧れることだと思います。私はこの夏、初めて海外に短期留学をしました。英語が話せるわけでもない私にとって今思えば、よくサンタモニカに行けたなと思います。でも、行ってよかった、

後悔は一つもなくとてもいい経験になりました。

飛行機を降りたらもうそこは英語の世界で、正直にも聞き取れませんでした。外の景色はもうアメリカでその光景にテンションが上がる一方でした。自分がアメリカのサンタモニカにいることが本当に信じられませんでした。

英語が聞き取れない私はなんとなくニュアンスで聞き取り、単語で返していました。私のペアのベンは、サンタモニカのいろいろな説明をしてくれているのに私はうなずくだけで特に質問をしないので会話が盛り上がりませんでした。

その夜、英語が喋れないことで迷惑をかけてごめんなさいとホストマザーに謝りました。ホストマザーから「謝らないで、迷惑だなんて思っていない。あなたがここに来てくれて私はとても嬉しいわ、英語を使うことを恐れなくてもっと話してほしい。」と言われました。

私はその時初めて気づきました。英語が話せないからと言って私は話すことから逃げていました。話してみないとその人がどんな人なのかわからないし仲良くもなれないし、知らないことを知ることもできません。話さなければ何も得るものはありません。

私はその日から学校で習った簡単な英語だけど少しずつ話そうと努力をしました。そのうちに、ベンといろんな話をするのができて不安もなくなり楽しく過ごすことができました。私は英語だけでなく何に対しても失敗してもいいから、とにかく色々やってみることが大事だということを学びました。

サンタモニカでは、遊園地やビーチ、プラネタリウムなどたくさんの場所に連れてってもらいました。その中でもケーキ屋さんやカフェを回ったのがとても楽しかったです。私は将来カフェを開きたいのでその参考になりました。ケーキの色がとても鮮やかなのはアメリカらしいと思いました。お店の外にはカップケーキのATMがあって注文するとそこから出てくるシステムで日本にはなくとても面白いと思いました。

2週間が過ぎてベンと一緒に日本に帰国し、日本はジメジメしていてベン達にとってはとても過ごしにくいと

思いました。

日本に来てベンと東京を観光したのがとてもいい思い出でした。普通の道路の写真を撮っていて海外の人からすれば日本では当たり前前の道も新鮮なんだと感じて不思議に思いました。私もサンタモニカで道路を撮っていたことを思い出しました。ゲームセンターで遊んだり、ラーメン博物館に行ったりして楽しみました。

ベンは日本語が結構話せたので、私の両親との会話も苦勞せずにできていたのでとても感心しました。お互いにこれは日本語でなんていうか、英語でなんていうかを聞きあいながら会話のできたので知らない単語も知ることができました。また、ベンは日本の魅力と文化に触れて楽しそうに行動していたので、私までとても楽しく過ごすことができました。

このサンタモニカ交換プログラムに参加させてくれた家族と受け入れてくださったホストファミリー、また推薦書を書いてくれた学校の先生、たくさんの協力があった参加できたことに本当に感謝したいと思います。留学を通して学んだことをこれからの人生に生かしていきます。貴重な体験をさせていただいてありがとうございます。



“Sightseeing” “2weeks” “you too” 佐野大晟 (ペア Ulyseas)



佐野大晟 16歳が初めて異国の地に足踏み入れた瞬間だった。「大晟、これやってみないか？」3月のある日、担任が言った。これが、僕が富士宮市・サンタモニカ市姉妹都市交換学生事業を知ったきっかけだ。

出発当日、人生初の海外を目の前に僕は、新しい世界への高揚感と不安でいっぱいだった。

NRT (成田) ~ LAX (ロサンゼルス) 飛行機を降りるとそこは、アメリカ！目の前には、巨大な星条旗がドオーン。アメリカに来てしまった…と感じた。空港を出るとUlyとお父さんが待っていた。電話とメールで会話をしていたので初めて会うような気がしなかった。

家に行く途中に寄ったベニスビーチ、プロムナード etc …、初めてのアメリカンなハンバーガー、街並み、初めてづくしでこれからの2週間が本当に楽しみになった。こうして、アメリカでの僕の2週間が始まった。

アメリカでは、たくさんの貴重な体験をたくさんさせていただいた。毎日新しいことの連続だった。そのすべてをこの作文では、語りきれないので中でも特に印象に残っている3つのことについて書きたい。

まず、1つ目にアメリカの人たちは、とてもフレンドリーで誰にでも優しく接してくれるということだ。なんとホストファザーは、信号待ちをしている隣の車の運転手さんに何のためらいもなく話しかけていた！それに対して相手の運転手さんも笑顔で返事をし、会話が成立していた。最初は、知り合いなのかと思ったが会話を聞いているうちに全然知らない相手同士だと気付いた時には、本当に驚いた。このアメリカ人らしいオープンな明るさは、日本人にはないもので素晴らしいことだと思った。

2つ目は、他の留学生の仲間と8人で行ったカリフォ



ルニアサイエンスセンターでの思い出だ。そこには、日本では、絶対にお目にかかれないたくさんの貴重なモノが展示されていた。僕が本当に楽しみにしていたものは、この科学館に展示されている“スペースシャトルエンデバ一号”だ。僕は、航空宇宙の分野に興味があり、一度でいいからお目にかかりたいものがスペースシャトルだった。本当に一生忘れることのできない思い出になった。

3つ目は、たくさん英語に触れる機会を得られたことだ。今回、アメリカに2週間、日本で2週間Ulyやその家族、他の留学生メンバーと過ごして自分は、やはり英語が好きで英語をもっともっと使いたいと思っていることに気付かされた。

自分の中でやりたいことがしっかりと定まらないまま高校生活を送ってきた自分を変えるきっかけだった。今は、英語を教える立場の人間になりたいという気持ちが大きくなってきている。それは、決して容易なことではないと思う。しかし、今回感じた自分の気持ちを大切にしながらその夢に向かって頑張ろうと決心できた。

今回の留学経験は、本当に自分のこれからを決めるのに重要な経験だった。今までにも自分を変える「きっかけ」は、たくさんあったと思う。しかしそれを全部逃してきてしまったのだと思う。

だから今回は、自分の気持ちに正直になり応募した結果、代表として選んでいただき渡米することができた。この選択は、正解だった。3年間しかないこの高校生活で目の前のやれること、やりたいことに全力で取り組む自信がついた。

このような、貴重な経験を僕に与えてくれた、家族、ホストファミリー、富士宮市の方々、両市の姉妹都市協会の皆さんには、感謝してもしきれない。

今回得た、この経験値をこれからの人生に大いに活かしたい。何年後になるかわからないが一回も二回も成長した自分で、アメリカの大切な家族に会いに行きたい。

サンタモニカ講座

交換留学生8名によるアメリカと日本の違いや現地の人との交流、日本での体験等の発表

アメリカの高校生Lifeを知ろう

■ 2016年8月10日（水）開催

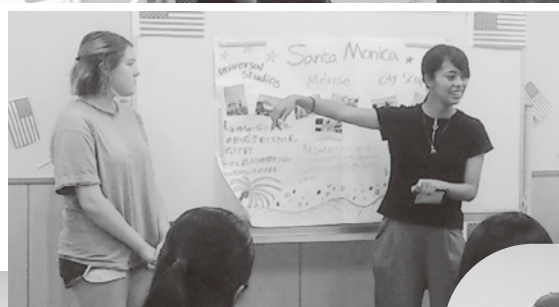


交換留学生ペアでパネルを作成

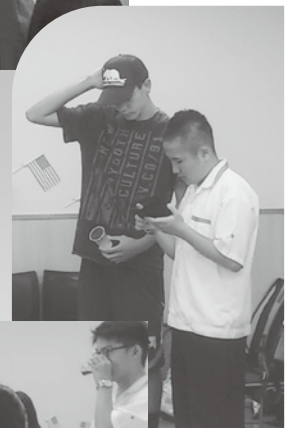


富士宮国際姉妹都市協会より
サンタモニカの紹介

日本学生は、食べ物の大きさや家の広さ、ホームステイでの生活で驚いたことをプレゼン
サンタモニカ学生は、日本での観光や体験を発表



発表後のフリートーク・ピザパーティーの様子



サンタモニカ市親善訪問団派遣

サンタモニカ市庁舎の訪問や歓迎会出席などを通じた友好親善

10月19日(水)	出発式、ロサンゼルス空港へ→サンタモニカ市庁舎にて表敬訪問→歓迎レセプション
10月20日(木)	ロサンゼルス見学(ゲティセンター・ハリウッド等)→ラスベガスへ
10月21日(金)	ラスベガス見学、シルクドソレイユ鑑賞
10月22日(土)	ラスベガス空港より、シアトル空港経由で帰国

姉妹都市サンタモニカ市 親善訪問団に参加して

浅井大志



ザイオン国立公園

3泊5日の日程で、サンタモニカ市親善訪問団に参加させていただきました。富士宮国際姉妹都市協会役員を拝命し2年目、一昨年の40周年記念式典にて、サンタモニカ市訪問団の皆様と交流を図らせていただいた時の英会話の楽しさが印象深く、次回の訪問団には是非参加できたらと考えておりました。

各自機内での時間を過ごした後、ロサンゼルス空港には、予定より若干早い午前11時前に無事到着しました。その後ビーチにてランチ、サンタモニカ市庁舎にて表敬訪問し両市の親睦を深めました。それから、市関係者の皆様と協会関係者にてSGI-U.S.Aに出向いた際には大勢の盛大な歓迎を受けました。

その晩、過去にゴルフのメジャー大会も開催されたリビエラカントリークラブにて両協会の親善レセプションが行われ、両市の関係者代表挨拶の後、プレゼント交換やその披露が行われました。富士宮市訪問団の19名は3～4人ずつ6つのテーブルに分れて着座しサンタモニカの皆様とテーブルを囲み、コース料理を堪能しながら交流を深めました。個人的には隣席した先方の女性と会話も弾み、英会話の楽しさを改めて実感することとなりました。その隣席したアンさんという女性とは、帰国後写真をメールいただいたり、お礼の返信をしたりと英語での交流もさせていただきました。

2日目は、ロサンゼルス市内観光として、ゲティセンター～ハリウッド～ビバリーヒルズ等散策しました。晴天日が年300日ということで快晴で、また気温も高く日中は

半袖で過ごせました。雲ひとつない空の青さはカリフォルニア州ならではの素晴らしかったです。あっという間に夕刻となり、空路ラスベガスへ向かいました。

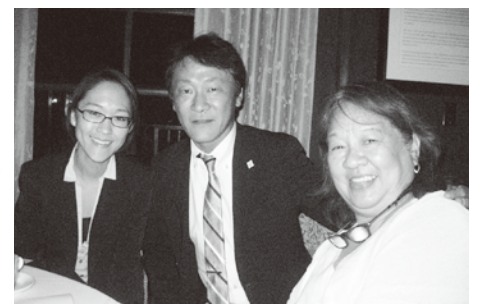
3日目、それぞれオプションツアーに別れ、私はザイオン国立公園ツアーに同乗しました。セスナでのグランドキャニオンツアーも魅力でしたが、恥ずかしながら実はセスナが怖くて陸上ツアーを選択したのであります。ザイオン国立公園は、ユタ州に位置する砂岩の山に囲まれた渓谷でした。昇仙峡を巨大化させたUSA版といったところでしょうか。そのスケールの大きさと赤く日に焼けたナバホ・サンドストーン(砂岩)は圧巻でした。ラスベガスから片道3.5時間約300キロの道のりも堪能しましたが、日本人ドライバーさんとの会話と睡眠で楽しく過ごせました。

その後、ベラッジオホテルの劇場にてシルクドソレイユを鑑賞しました。ここまでくると睡魔との戦いでしたが、その公演のスケール感と人間離れたダイナミックさに夢中で感動ものでした。

流石眠らない街ラスベガス、一人深夜のネオン輝く街へ繰り出しました。ABCマートや24時間営業のスーパーなどで雑貨を買い求めホテルへ戻ると深夜2時過ぎ。帰国は早朝5時集合であったので、これは寝てしまうと危険かと思ひ、少々カジノで遊興し短いUSA滞在は幕を閉じました。土曜日朝、ラスベガス空港を出発しシアトル経由で日曜日の午後、全員無事、富士宮へ戻って参りました。

須藤市長、赤池会長はじめ訪問団の皆様には大変良くしていただき感謝申し上げます。

この経験を活かし、今後の姉妹都市協会の発展や富士宮市サンタモニカ市の友好に少しでもお役に立てていけたらと思います。また機会がありましたら、是非渡米したいというくらい、素晴らしい国でした。



レセプションにて

暖かい交流と雄大な自然に感動

渡辺節子

2016年10月19日～23日迄、3泊5日のサンタモニカ市親善訪問団に参加させていただきました。新聞に募集記事が掲載されており、すぐに知人を誘い、4人で行くことに。

10時間の飛行時間、そして日本との時差には戸惑いがありました。ロサンゼルス空港が近くなるにつれて期待は大きく膨らみ、反対に不安は薄れていきました。長旅の疲れもなく、バスでサンタモニカ市へ到着。33度程の気温で真夏の暑さ！

まず最初に、ロサンゼルスの数あるビーチの中で最も人気の高い木造栈橋「サンタモニカ・ピア」へ。広々とした砂浜がとても美しく、平日にも関わらずたくさんの人々がゆったりと過ごしています。でも、泳いでいる人はほとんどいません。気温は高いが水温が低くハワイとは違うとのこと。同じ太平洋なのに不思議に思いました。

ビーチを後にし、いよいよサンタモニカ市長表敬訪問へ。市長は残念ながらご不在でしたが、副市長が出迎えて下さいました。姉妹都市の提携を結んでから41年の間、市民交流、野球・サッカーなどのスポーツ交流、高校生の交換学生…670人の市民がサンタモニカ市を訪問し、素晴らしい思い出を作ってきたそうです。

今回は18回目の訪問団。須藤市長は1994年・2014年・今回と3回訪問し、より一段と交流が深まりこれからも長く続くことを願っていると御挨拶。サンタモニカ前市長も出席して下さい、皆さんとてもこやかに親近感を感じました。また、市役所の外で“Fujinomiya Dori”と名付けられた長さ50メートル程の道を見つけ、私達の富士宮市をここまで親しんで下さっている事に感動しました。

夜はリビエラカントリークラブにて親善レセプションに出席。両市の方々の御挨拶後、会食。私はサンタモニカ市の方に喜んでもらえるよう、英語で挨拶。日本語で挨拶すると思われていたようで、周りの方に驚かれました。そして、富士宮市の歌手・稲葉やすひろさんが日本のお茶を世

界に広める曲「富士山茶茶茶お茶街道」を歌い、次に「上を向いて歩こう」を全員で歌いました。同じテーブルの交換学生の親子が、楽しそうにスプーンでリズムを取ってくれます。音楽で打ち解け、片言の英語で話しながら楽しい時間を一緒に過ごす…普通の旅行では味わえない思い出が出来ました。

2日目は、美術館Gettyセンターへ。個人所有とは思えない美術品のスケールの大きさにビックリ。その後はバリーヒルズ・ハリウッドへ。さすが、映画に出てくるロケーションでした。夜はロサンゼルス空港からラスベガスへ。空から見た街のネオンのすごさに目を見張るばかり。

3日目はオプションツアーのグランドキャニオン遊覧飛行へ。約15人乗りのセスナ機は、色んな国籍の人を乗せ満員で飛び立ちます。地球上にこんな広大な、見渡す限りの渓谷があるなんて…。地層が何層もの赤茶色のグラデーションとなり、岩肌は侵食され荒々しい自然美を作っています。コロラド川の深い緑色とのコントラストが本当に美しく、窓から夢中で眺めました。コロラド川の川下りをするのに10日はかかると聞き、アメリカ大陸のすごさに感動するばかりでした。

夜は楽しみにしていたシルク・ド・ソレイユ「オー」へ。シルク・ド・ソレイユは日本で二度観たことがありますが、さすが本場、水がテーマのオーは演出がすごく、生演奏にも感動しました。

今回、訪問団に参加させていただき、一生の思い出になりました。一緒に行った仲間と写真を見返しながら話していると、思い出が鮮明によみがえります。サンタモニカ市の皆さんの歓迎、真夏の暑さ、街の風景、広大な自然の色…訪問団でたくさんの思い出ができ、胸がいっぱいです。

市長様、議長様、職員の方々、同行して下さい下さった方々…皆さん本当にありがとうございました。これからも両市の交流が広がっていくことを期待しています。



出発式（渡辺節子さん：前列右から4人目）

中学生英語スピーチコンテスト

富士・富士宮地区の中学生による
「暗唱の部」「自作の部」の発表

■ 2016年12月3日（土）開催



暗唱の部

★会長賞受賞 「お茶会」 A Tea-Party	深澤 優奈さん(写真左)
「僕らならなんとかなるさ」 We Can Work It Out	望月 愛花さん

自作の部

★会長賞受賞 「愛する権利」 Loving Right	今田 恭太さん(写真右)
「自信をもって」 Be Confident	仙石 颯季さん
「赤毛のアン」 “Anne of Green Gables” and me	遠藤 亜伊さん

A.C.C.国際交流学園より、ゲストスピーカーとしてジュリアニさんが美しい日本語で「10年後の私」を披露



スピーチコンテスト 感想
審査員を終えて
佐野 柳 策

今回、初めてのスピーチコンテストは素晴らしいものでした。

スピーチの英語の発音、イントネーション、又、ジェスチャーや、発表態度など、とても中学生とは思えない程の質の高さを感じられました。あの頃の年頃の子供が、人前で堂々と発表した勇氣に感銘を受けました。

少々気になっていた事は、折角の場に聴衆が来てくれるかどうかでしたが、思っていた以上に会場が一杯になる位、大勢の方が来場してくれました。発表者は、さぞ励みになったことでしょう。

彼らのこれからの人生において、貴重な体験になったことと信じます。

来年以降も、今年以上に多数の参加者があり、これからも、このコンテストが開催され、一層充実されることを念願しております。



平成29(2017)年度総会のお知らせ

- 日程 5月10日(水) ●会場 富士宮駅前交流センターきらら

平成29(2017)年度主な事業予定

- サンタモニカ高校生来日 ホームステイ受け入れ
日程 4月7日(金)～4月8日(土) 1泊2日
- サンタモニカ交換学生事業
派遣 7月22日(土)～8月4日(金) 受入 8月4日(金)～8月17日(木)

交換留学生・会員 募集のお知らせ

●交換留学生募集 ★サンタモニカ(ロサンゼルス)ホームステイ★

富士宮市の姉妹都市サンタモニカで異文化体験してみませんか！
期間中は、現地高校生とペアを組み、お互いの家庭で約2週間ずつ家族の一員として生活します。

渡米期間 7月下旬～8月上旬の2週間

受入期間 8月上旬～8月下旬の2週間

募集人数 3人(高校生対象)

●会員募集

当協会は、会員の皆様からお預かりした会費により事業運営をしております。皆様の会費や寄付により、富士宮市の将来を担う若者たちのために、より多くの英語発表の場、国際交流の機会を提供することができます。御協力をお願い致します。



いつでもお問い合わせください！

富士宮国際姉妹都市協会事務局
富士宮市役所 市民交流課内
Tel 0544(22)1486 Fax (22)1284
E-mail:koryu@city.fujinomiya.lg.jp
HP:http://fisca.jimdo.com/
https://www.facebook.com/fiscafujinomiya

印刷：フジ印刷有限会社

編集後記

佐野吉弘

昨年度の姉妹都市提携40周年記念事業も成功裏に終わり、次の周年に向けてギアを入れなおしたといえるのが本年度ではないでしょうか。事務局も一新し、今まで以上に活動に力がいったような気がします。

交換学生事業は、4名の派遣となりました。派遣前と後では、学生たちの表情も雰囲気も全く違い自信に満ち溢れているように思えました。この経験が将来の夢や希望にきっと役に立つのではと思います。

10月にはサンタモニカ市親善訪問団派遣に19名が参加しました。そして、12月3日駅前交流センターきららにて、本年度より中学生英語スピーチコンテストを開催しました。このコンテストは英語への関心向上を目的としています。5名の生徒が英語スピーチを競い合い、緊張しながらもそれぞれの思いを伝えました。

これからも、当協会へのご理解とご協力をお願い申し上げます。